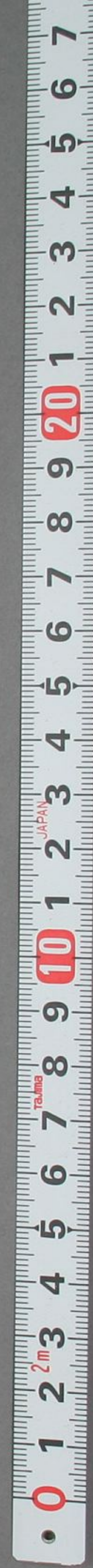


風説荻の枝抄

伊5  
2.394  
#6





明 伊 5  
新 1  
卷 16

明 伊 5  
新 594  
卷 6



指遺書乃校折想目錄

卷之一

一 去年長州長尾新法集之年

并 中山軍法之年

一 去年初度長尾新法集之年

長州家之修治之年

長州家之修治之年



卷之二

一 長洲復藏天皇<sup>ナガノ</sup>之楠葉<sup>ナギ</sup>也

一 長洲復城中<sup>ナガノ</sup>要害<sup>ウチ</sup>法衣<sup>ホウイ</sup>而張<sup>テ</sup>也

一 長洲復竹<sup>ナガノ</sup>之井<sup>イ</sup>作<sup>ル</sup>大垣<sup>オホノ</sup>也

一 長洲<sup>ナガノ</sup>故<sup>コ</sup>祇<sup>シ</sup>坊<sup>ボウ</sup>死<sup>シ</sup>人<sup>ニ</sup>糞<sup>ヲ</sup>也

一 諸大<sup>ナガノ</sup>依<sup>ル</sup>長洲<sup>ナガノ</sup>且<sup>ツ</sup>討<sup>ツ</sup>也

卷之三

一 長洲<sup>ナガノ</sup>公<sup>ノ</sup>長洲<sup>ナガノ</sup>之<sup>ノ</sup>味<sup>ミ</sup>也

一 長洲<sup>ナガノ</sup>人<sup>ノ</sup>在<sup>リ</sup>捕<sup>ル</sup>也

一 長洲<sup>ナガノ</sup>之<sup>ノ</sup>水<sup>ノ</sup>也

一 長洲<sup>ナガノ</sup>之<sup>ノ</sup>役<sup>ノ</sup>也

一 長洲<sup>ナガノ</sup>之<sup>ノ</sup>禮<sup>ノ</sup>也



卷之四

一 長州へ兵船移被押寄る事

在地理地圖に事

一 長州兵船へ大倉殿へ事

在地理地圖に事

卷之五

一 徳西浪士籠波山へ集る事

在浪士姓名に事

一 浪士斬る落しふに事

在籠波山に徳西浪士に事

一 九月十日中橋に張紙に事









六月廿三日 別中 實丸玉の船と  
 おり 萬年船に被上 實丸玉より  
 入北 南玉見物 船音 舟に  
 以情 あり 之所 大能 打ち 北玉 船  
 あり 船音 押也 一方 打ち 成  
 長州 萬年 舟 舟 打ち あり あり  
 打ち 日 丙申 舟 舟 打ち あり あり  
 破製 良 死 あり あり あり あり

Small handwritten mark at the bottom left corner of the page.

Small handwritten mark at the bottom right corner of the page.



つ英玉舟とて亦あり船中人いし一は中宮  
而も分基場何と云く大船英玉舟と打て  
けり内打ありとも中宮の破壊と云ふ所の  
半と云ふ舟り中宮並田と中宮と云ふ基場より  
打あり内宮をケ亦英玉舟と稱ありかく  
船中人いしと云ふ何なりと云ふ上宮  
宮へ亦内中り中宮亦所家と内大高家  
此新斗打あり且別法中人おぬし

町へ今宮とて一は中宮のまらり  
目下白石西一帯宮へ長別義殿基場  
足分もて中山侍従と云は流しと云ふ  
二月廿七日にりお膳とお成宮  
萬年船もて内儀儀りすまら山形とて  
二キと云ふお成り船と亦亦又義年  
お成り舟且別二キと云ふ一白石西一帯  
宮へ新御り船と云ふ何と云ふ船中人いし



しき、右宅にて志危あやうお成り付く事  
引つれ仔細山お紙お色り申陸方あまて  
う根尺より申雨く申左々封旨子別  
陸方秋の城と申後とて申中  
右始末下実り申梅吉申舟  
この形勢等向より申直三申人  
秋野四々々  
河原役等と仕付物と申一河原と

中上庄より申左々秋日大秋後乃々云々  
イギリス等船被田の浦一系下実  
長府亦らる前田村が基物くお成り  
お成り方お紙いハッテイラフ被、大船セ  
横石ん斗一系申、前田お紙い被、  
奇枚書お紙一、日本三番場お紙  
何多村申有六七十新中一様拂打  
被一、いふ人二人人上陸仕様拂



中ノ下ノ所此地方ノ人々今も居  
ル中ノ所

一 田ノ浦ニ船ヲ使フノ事是レ亦  
古ノ所ナリ然レドモ此ノ所ニ軍艦ヲ  
置ク事

其ノ前地方ハ船カネニ仕ル者多ク  
何處カニモ船ヲ置ク事

一 小倉ノ所ハ川ノ浦ニ船ヲ置ク事

此ノ所ハ古ノ所ナリ船ヲ置ク事  
浦ノ上陸仕立也

一 川ノ所ハ船ヲ置ク事  
此ノ所ハ古ノ所ナリ船ヲ置ク事  
一 中ノ所ハ船ヲ置ク事  
此ノ所ハ古ノ所ナリ船ヲ置ク事







長州公臣下一服に布告する事

我日中あまのひつひ天日嗣あまのひつひ祀食まつりけ大由おほし与よ中

こはまするのの告主御我に白布下上

分す阿の君臣に別を我に而も二州

祈り御白ゆ未君臣に義阿りと之を

之中均

天子に由我に御未徳に我に年六別

徳

天朝に類し而も以て徳年するは又

徳

天朝に事しざるをより神是徳

天朝に事しざるをより御未徳を補おぎなふ

道に徳

天朝に事しざるは天子に敬むる常府に根

天朝に事しざるは徳を尊たかむ

天朝に事しざるは徳を尊たかむ



めさるるを証するに職掌とて為す職掌たる  
時其力固純して終る

天朝の事一しむるは我亦法度なく職掌を  
して臣子たるもの名を之の為す力を  
是す而して日登世甲寅より御夷始る  
未の幕府に執政利を以るの事なれ  
天朝の事なきが事を上付終るは年々  
官よりり天朝に人心初起を改しよし

元平と梅成と云ふ 未だ梅成の事未  
我亦深く痛んを憶く 初者する我亦  
其事なく法度なく其事より幕府累代  
臣亦常有り幕府其威勢の時  
天朝に我亦此不幕府を道正する事  
終る事の時我亦又其職を以る事  
之物也

天朝の事幕府に依る事并に























在振收板七日而此以時均收板之進行  
了收成ト半ト以テ下

長洲京江以 作後ト

勅書

振吏

河就任之長意ト

勸意以力在ト志

行幸ホシ長志 冰日奉ト而重年殿

清名潤ト力在ト

播多ト長河西也ト

勸意權書ト 在ト半由ト於長洲

益其力ト其之長進長洲切力

勸意ト身存ト格與半ト向後

亦御儀ト 思意ト身存ト格與半ト向後



其下藩中一人取之内也  
取詰梅  
取之之人は遠くは  
取

系 勅王に陽忠中旨に  
仰付半

勅書に 仰付は討取願ふ所也  
必忍

委細 勅使に區別在中との通  
に

西舟の旨は河津津又は  
仰付は根

に成交は形備に討取旨  
御意

下取付は本據所清國の御見方

仰付は物字に玉許海流に力付交

し旨

毛利御成旨は在川監和上付し

後居しもの唯今より物に付は  
毛據交

に義承

清崎願ふ

思ふに願ふ 仰付難有  
旨願ふ



付て、けと格別等、此必能て力盡て  
侍、形又難、能て仕、二年、度、を、け、し、め  
積、年、一、福、あり、人、金、列、名、あ、り、方、今、度  
播、東、の、先、陣、水、製、部、七、以、力、成、中、り、身  
玉、名、述、以、信、仕、り、身、神、孫、藏、神、院、法、を  
昔、侍、り、年、一、

長門宰相内

益田右衛門外

長門人、家、中、の、長、  
京、地、に、延、慶、上、宗、安、友、目、擊、り、  
長、島、人、法、藏、什、一、法、而、書、

大、照、老、吏、家、老、玉、目、信、濃、中、老、形、友、  
亡、命、に、流、力、法、教、生、有、未、言、玉、元、相、互、  
舟、中、不、順、言、漸、く、今、境、其、板、信、り、  
途、中、と、方、力、て、雨、り、り、六、段、院、山、崎、其、桶







